

昨年、大久野島を訪れた。現在、「うさぎ島」として有名なこの島では、第二次世界大戦中に兵器用の毒ガスが作られていた。日本軍が毒ガスを使用したことは知っていたが、その場所が瀬戸内海にある大久野島であることはうかつにも知らなかった。

島の毒ガス資料館に毒ガス作りに使用されていた防護服が展示されていた。これで有毒ガスの害を防げるのだろうか、と疑いたくなる布製の装具であった。島の対岸にある医院には毒ガス工場で働いていた従業員が体調を崩し、よく通ってきていたという。

作られた毒ガスは九州で充填され、中国大陸へ運ばれたという。中国では日本軍の毒ガス（遺棄化学兵器）が人目に付かない所などに遺棄され、今も深刻な問題となっている。

戦争中、実際に毒ガスがどの様に使用され、終戦時にどう処理されたかという記録はほとんど残っていない。毒ガスは使用が禁止された化学兵器であるため、国際法違反であることを認識していた軍は、証拠が残らないよう敗戦時に処理したとされる。製造設備なども破壊された。毒ガス製造に携わる人々にはかん口令が下されていた。要塞のあったこの島は日本地

毒ガス兵器をつくっていた島を訪れて

図から消された歴史を持つている。

瀬戸内の島々に囲まれ、竹原からフェリーで15分の大久野島は、戦後、国民休暇村として滞在者を受け入れるリゾートとなった。残っていた毒ガス施設の一部や関連施設は撤去される話になったそうだが、地元の反対運動により残され、現在私たちが当時の様子の一端を知る手掛かりとなっている。

海から見えないよう土手を築いたその後の発電所跡は、今にも朽ちて崩れそうな状態であった。長期滞在型ホテルの近くには、焼却跡を残す毒ガス関係施設もある。

案内の方に説明され初めて気がつくほど、ごく一部しか残っていない施設が多いが、こうした加害の跡を含む戦争遺跡は是非保存し、多くの人々に見てもらいたいと思う。戦争経験者が年々少なくなりつつある今日、その現実を知ることが、戦争の悲惨さ、平和の尊さを次世代に伝えていくために、とても大切なことではないだろうか。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎ 880・6569